

<全体分析>

試験時間

120分

解答形式
記述形式

分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・**変化なし**・増加) 難易 (易化・**変化なし**・難化)

出題の特徴

読解総合：英文和訳 (一部指示語説明含む)、空所補充 (適語選択)、指示内容説明
英作文：会話文含む

その他トピックス

読解問題において、空所補充問題、指示内容説明問題が出題された。英文和訳でも指示語説明を含む出題があった。英作文では会話文が一題出題された。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	読解総合	「音楽と優れた絹糸の相似性」 (682words)	<p>(1) 第1文は Only when 節の範囲を特定し、後に続く倒置構造を正しく把握することがポイント。第2文では非制限用法の関係副詞の処理とダッシュ(—)以降の役割の理解、またダッシュ(—)に続く the way SV 構造 (目的語の並列を含む) の把握がポイントとなる。</p> <p>(2) 「本文の主旨に照らして」とあるが、実質的には該当部分を発見して和訳すればよい。「日本語30~50字」とあるので、解答例に挙げた解答以外に、From the basic physics of string theory to complex biological materials の部分を含めてもよい。</p> <p>(3) 第1文では、動名詞を主語にした無生物主語構造の把握、by which に始まる関係代名詞節内の構造の把握がポイントとなる。第2文前半では2つの関係代名詞節の把握がポイント。translate は自動詞として用いられている。while 以降は、明示する必要はないが the ones、as 節中の they の内容を確認めたうえで和訳する必要がある。文末の a more interwoven network の network の訳出が難しいが、これは実質的には本文に繰り返し出てきた hierarchies や systems などと同じものを意味している。translate、harsh、interwoven などの訳出にも気を配りたい。</p>	やや難

II	読解総合	「無」をめぐる 問題の偏在性 (376words)	<p>(1) 全体の文構造はとりやすく、具体化を求められた it の指示内容も紛らわしくはない。ただし、Not only につづく倒置構造の把握や Far from ... の処理を誤らないこと。表現の面では、make an appearance 「顕れる」は文脈から推測可能だが、every walk of life 「あらゆる職業」の訳出は難しい。</p> <p>(2) it follows that S V ... 「S が V するということになる」、〈the + 比較級 ..., the + 比較級 ~〉「…すればするほど、それだけ～」という表現の知識を前提にしつつ、文脈に即した適切な訳出が求められている。その他の表現では、leave A with B 「A に B を残す」に注意。</p> <p>(3) (ア)・(イ) とともに埋めるべき単語の選択に難しさはない。それぞれの空所を含む文構造を正確に理解して、適切な形に直すこと。</p>	標準
III	英作文	<p>(1)「トキの復活」</p> <p>(2)「文字を持たない言語」</p>	<p>会話文特有の難しさは特に見られない。「雛が孵った」という表現が難しい。「絶滅の危機に瀕していたトキ」には関係詞の非制限用法が要求される。「飼育係」「自然に戻された」などは表現を工夫すれば書くことができる。</p> <p>標準的な問題。「文字」に letter を単純に当てていかどうか、「毎日文字に囲まれて暮らしている私たち」「思い上がり」といった表現をどのように英語で表現するか、などがポイント。</p>	<p>やや難</p> <p>標準</p>

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

従来の英文和訳に新たな問題形式が加わったが、英文のテキストは基本的に従来の京大入試の英文和訳問題のそれと変わっていない。大問Ⅰの指示内容説明も、語数に余裕があり、該当部分がわかれば普通の和訳問題と大差ない。大問Ⅱの説明問題も、該当部分を発見することは難しくなく、空所補充も解答は容易である。総じて従来型の精読問題の勉強法を大きく変える必要は、少なくとも今年度の入試を見る限りはないように思われる。形式の小変化に動揺することなく、まずは「内容理解を伴った構造分析」という基本姿勢を徹底してほしい。

英作文では、今年度久しぶりに会話文が出題された。1998年度以降、2003年の後期まで出題された会話文問題が参考にはなるだろうが、今年の入試を見る限り、会話文特有の難しさはあまり見られない。従来通り、正しい文法・語法の運用をまず心がけ、その上で、直訳の通じない、日本語と英語で大きく発想の異なる場面に数多く当たって、演習を積むことが求められる。